

足立区立西新井中学校
校長 石井 秀生 様

足立区立西新井中学校
開かれた学校づくり協議会
会長 石鍋 浩

令和7年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

今回の自己評価書は、学校の現状を客観的かつ適切に捉えた内容であると評価します。「生徒一人一人が輝き笑顔あふれる学校」の実現に向け、自尊感情を育む施策を継続したことで、校内の落ち着きや生徒の自主性が着実に向上している点は大きな成果です。

特に、生徒会を中心とした自治活動の活発化が顕著です。環境美化活動に加え、校則の見直しに向けた議論、さらには生徒自身が主体となって取り組む「挨拶運動」や「花いっぱいボランティア」など、他者を思いやり環境を整える活動が定着してきました。こうした姿からは生徒一人一人の確かな成長が感じられ、地域・家庭からの信頼をより強固なものにしています。

評価できる点、および今後の重点課題は以下の3点である。

1 自己評価書全般について

おおむね適切な自己評価をしていると考える。

一人一人の生徒が輝き笑顔あふれる学校づくりを目指した、生徒の自尊感情を高める取組を通して、落ち着いた学校づくり、生徒の自主性向上について一定の成果が出ているといえる。

さらに、より良い学校を目指した生徒会中心の自治活動はより一層活発で、校内環境美化の取組の他に、校則についての話し合いや、生徒が生徒に行う活動として「授業態度をより良くする活動」やチャイム着席にも取り組んだ。これらの取組や、生徒会を中心とした生徒による活動からは、生徒一人一人の成長が感じられ、家庭・地域から信頼される学校として、今後も位置づけられていくと考える。

評価できる点、努力してほしい点としては以下の3点である。

(1) 学力向上と ICT の活用

生徒の学習意欲を高めるための継続的な努力を支持する。今後も、一人1台のタブレット端末等の活用を授業や家庭学習で推進しつつ、デジタルとアナログの良さを融合させた効果的な指導によって、さらなる学力向上に繋げていくことを期待する。

(2) 不登校生徒への支援と SSR の活用

不登校生徒への対応は依然として大きな課題ですが、新設された SSR (スモール・ステップ・ルーム) が有効に機能し、生徒の居場所づくりや登校支援に寄与している点は高く評価できる。引き続き、生徒や家庭の思いに寄り添う丁寧な対応を実践してもらいたい。

(3) 家庭・地域との連携強化

昨年度の創立 50 周年記念行事を経て深まった地域との絆を、教育活動の基盤としてさらに発展させていってほしい。学校の活気ある様子や生徒の活躍を積極的に発信するなど、広報活動をより一層充実させ、地域と共に歩む学校づくりを期待する。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

自己評価書に挙げられた「基本的な学習習慣の定着」や「不登校生徒への適切な対応」を、協議会としても最優先の共通課題として認識しています。生徒の健やかな育成には、学校・家庭・地域の緊密な連携が不可欠です。家庭への働きかけを強め、地域全体で教育環境を支える体制を整えてまいります。

3 その他

次年度の協議会活動においても、学校側と密に相談しながら地域連携を一層強化し、さらなる教育活動の充実に向けて協力。